

結婚の意思決定 (3)

— 一個人の社会関係性が交際から結婚への移行に及ぼす影響 —

○ 内閣府経済社会総合研究所 高村 静
内閣府経済社会総合研究所 石田 絢子

1. 目的・方法

男性の収入の水準や安定性が幅広い範囲で結婚への移行要因と認知されるなか、それ以外の結婚を決める要因にはどのようなものがあるのか、社会関係性の豊かさや生活スキルに注目して検討するのが本研究の目的である。

本研究では社会関係資本の基本単位で個人に蓄積される社会関係性を、社会的結合の中に存在 (embedded) する資源 (resource) または資産 (asset) であり直接計測することは困難だが個人の中に蓄積されるもの、と捉える。計測の方法は社会ネットワーク理論に基礎を置き「bridging (橋渡し) 型」「bonding (結合) 型」という2面から測定した内閣府[2016]に倣った。

研究方法は、内閣府経済社会総合研究所が2016年に実施した「結婚の意思決定に関する意識調査」の個票データ分析による。

2. 結果・結論

今回計測した社会関係性は女性よりも男性に多く存在し、bridging 型の社会関係性は所得との間に正の比例関係が見られたが、それ以外の社会関係性には所得との明確な関連は認められなかった。また親と別居する生活により増える可能性のあること、地域移動をすると失われる可能性のあることも示され、社会関係性は親から受け継ぐものというよりは、家族・親戚、友人・知人、そして地域を含む人間関係のなかで蓄積されたり、親元からの離家や日常生活をどのように送るかなどといった生き方の選択によって構築される可能性のあることが示された。

社会関係性が交際から結婚への移行に与える影響に関しては、直接的に結婚への移行確率を高める可能性があることに加え、豊かな結婚観を形成することにより間接的に結婚への移行を後押しする可能性も見られた。

なお、現在のところ結婚全体に占める比率も低く、また同時に交際から結婚への移行の確率も低い、女性の方が男性よりも、例えば収入が高い組合せのカップルに対しても、社会関係性が有効である可能性が見られた。ただしそうでない組合せのカップルでは、近い人との親密な人間関係を示す bonding 型の社会関係性が結婚への移行に正の影響をもつが、女性の方が男性よりも収入が高いカップルでは、社会的距離¹がある所ともつながるネットワークである bridging 型の社会関係性に正の影響がみられた。若い世代の結婚への移行をためらわせる要因の1つに男性の収入が女性の収入よりも低いというカップルの組合せがあることが示されたが、より広い社会的な範囲と繋がることを可能とするネットワークを持ち、生活スキルが高いなどの社会関係性をもつ場合ことは、そのような状況の中でも結婚への移行の可能性を高めることも分かった。

文献

内閣府経済社会総合研究所[2016]「ソーシャル・キャピタルの豊かさを活かした地域活性化 滋賀大学内閣府経済社会研究所共同研究 研究会報告書」研究会報告書等 no. 74

Lin, Nan[2001]” Building a Network Theory of Social Capital” CONNECTIONS 22(1) :28-51

¹ ここでは社会的距離とは社会的文化的にどれだけ共通性があるかによってはかられ、例えば言語、専門分野、価値、規範などが同じである場合を社会的距離が近いという。